

第七節 對露交渉

四二六 明治十一年三月二十日 榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正書類及委任狀等ニ關スル件

附屬書一 明治十一年二月十二日榎本駐露公使ヨリ寺島
外務卿宛電信寫

條約改正書類及委任狀等送付ニ關シ問
合ノ件

二 明治十一年二月十三日寺島外務卿ヨリ榎本駐
露公使宛電信寫

右ニ對シ回答ノ件
明治十一年二月十四日榎本駐露公使ヨリ寺島
外務卿宛電信寫
電文ノ意義ニ關シ問合ノ件

別記第八十五號 四月廿一日到

以公信致拜啓候然ハ別信第三十一同三十二號共落手御申越
の件々逐一領承別に回答不仕候先頃より差立候電信及び落
手致候分とも別紙の通爲念寫差進候就中(ヌ)號即ち十一年二

月十二日午後御差立に相成同日接手致候者は全く了解すべ
からざる文にて相届候に付即刻伺直し旁語數有餘の分を以
て條約改正書類竝に委任狀等は既に當表へ向け御差立に相
成候哉否相伺候處翌十三日末段の事柄丈け御返答有之依之
右書類竝に委任狀等は二月十二日に其表御差立に相成候段
は承知致候得共右伺直し候電文は必らず要件たるべく存候
に付尙一應(ワ)號の通電信にて相伺候事に御座候其後御返答
無之候に付右了解すべからざる電文は多分條約改正に關し
たる事にて別に態々御申越には不及事と御看做有之たる義
と存候

一魯使「スツルウェ」夫婦事先月下旬歸京拙者既に兩三次
互に往來面會致候乍去同人事未だ公私繁劇の様子に付條約
改正の様子等の談には及不申候同人昨日一寸當公使館
へ罷越候節當國大藏卿へ税則の事情一應話置たる旨申聞且
つ拙者右談判委任狀は落手致候哉否相尋候に付四月中旬な
らては落手の運びには參申間數旨答置候此時同氏事少々眉

を掣め居候察するに其故は五月に入候へは露國顯官等は例

年の通休暇を以て外行又は私領地等々旅行いたし初冬に至
らされは歸京無之者多きと同人義巴里府博覽會へでも赴く
爲め杯の都合も有之ての義に可有之哉に候將又二月十二日
に御差立に相成候は多分鮫嶋氏佛國行出帆の同日にて同氏
事拂帶致され候事にやと私察致候若し果して然らば鮫嶋氏
着佛の節前件委細の事情承り旁委任狀請取として拙者義巴
里府迄暫時出張致候運びに可相成も難測候に付此段預め御
届置申候

(下略)

明治十一年二月廿日

榎本武揚

寺嶋外務卿殿

四月廿一日到

註 1 別信第三十一號ハ一八四參看、別信第三十二號見當
ラズ

2 別紙イ號ヨリリ號迄ハ條約重修ト無關係、ヌ號ハ解
讀不可能ノモノニ付省略

附屬書一

別紙ル號

寺島外務卿時代 四二七

Terashima, Gaimusho, Tokio.

Your telegram is incomprehensible. Sent you al-
ready papers and instruction to here?

ENOMOTTO.

附屬書二

別紙ヲ號

Enomotto, Japanese Legation.

Petersburg Papers and instruction sent yesterday.

TERASHIMA

附屬書三

別紙ヲ號

Terashima Gaimusho Tokio.

What is the meaning of your first telegram?
Give telegraphic answer if you deemed it necessary.

ENOMOTTO.

四二七 明治十一年四月二十日 榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

訓狀其他書類接受並ニ巴里出張中止ノ旨報告ノ件

別記第八拾七號

六月十日到

以公信致拜啓候(中略)條約改正談判訓狀其外書類とも是

又落手右は早々談判に取掛可申の處過日鯨嶋氏より以電報右談判は同氏よりの書狀到來迄見合候様申越候に付今日迄見合居候兼て鯨嶋氏巴里府到着の上は拙者同府へ罷越萬事相談可致心得に有之候處今般可掛合事柄は御寄來の書類にて大抵判然いたし居其上近來魯英二國間の様子別て不穩一時は于今も事の紛れ候半も難計程に付是迄取調來候東邦疑問報告書の爲め旁一と先づ佛行は見合せ居候事に御座候尤鯨嶋氏の書狀接手の上別に書翰にては不便利の廉も有之候は品に寄り一寸佛行致可申も難計候

(中略)

十一年四月廿日

榎本武揚

寺島外務卿殿

四二八 明治十一年五月十七日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正交渉經過報告ノ件

附屬書 明治十一年五月八日條約重修談判記事第一號

訓狀を先日我政府より落手せり今日は其爲に罷越候我國現存の貿易條約は千八百七十二年に重修すべき筈なりしが各種の事情と阻障ありて今日迄遷延せし者にて候御承知の通我國は近年漸く歐洲各國交際と貿易との狀態を知り始めしにて現存の條約は其未だ知らざりし以前に取結ひたる者なるを以て今よりしてこれを見れば最も異常の性質の者にて我か獨立國たるの權理も實益も兩つながら失ひ居る者少なからず去我政府は順序を逐て下手するを主とし今般重修せんとする所は重に海關稅則を改正せんと意にて候

「ギルス」氏云く御懸合の件に付ては先達てより「スツルウエ」え取調方申付置又大藏卿へも懸合置候へ其未だ委細の事を承り不申御承知の通目下繁務の折柄貴下の御陳述を一々記憶致兼ねる患ひ有之候に付可相成は數日の後豫め時日を定め篤と御談判申度尤も落手の書面は「スツルウエ」を呼寄せ共に篤と披閱可致候

拙者云く貴下目今の御繁務は拙者承知致居候に付後日改めて御談判可申迄の間に「スツルウエ」君へ拙者と談判の下懸合を御命し被成候は拙者は同氏と緩々可申談候

寺島外務卿時代 四二八

別記第八十八號 拔萃

一重修談判の儀に付ては別紙にて御覽可有之通り本月八日一寸其端を開き候處現下魯英間の紛議殊に「ゴルチャコフ」氏先頃より引續き重病平臥等に依て外務大輔「ギルス」氏殊の外繁劇に付其後未だ談判の暇無之尤も「スツルウエ」氏事明日より來館して表向下掛合を始候筈に付一對話毎に其事を記し可申進候

明治十一年五月十七日

榎本武揚

寺島外務卿殿

附屬書

條約重修談判記事第一號

本日午後外務省に赴き外務大輔「ギルス」氏と面話にて今般我が政府貿易條約重修の趣意を略陳し訓狀の寫と兩三日前鯨嶋氏より接手せし副書を并て差出し候

口述の大意

兼て「スツルウエ」君より御聞及もありしならん我政府は現存の歐洲各國と取結ひし貿易條約を重修せんと欲し右の掛合を貴政府に向て致すべき旨を予に命せり予は之か爲の

「ギルス」氏云く然は御好意に任せ左様致度明日は「スツルウエ」へ可申渡候

但し目下東邦一案治亂の形未だ不相分加之「ゴルチャコフ」氏は十數日以来重病にて臥牀に付「ギルス」氏の繁務なる事は既に拙者罷越たる節同氏は帝宮より歸來り僅かに拙者と談話中奧國大使來りて次の間に控居尙外に一二ヶ國の公使も續て來り次を以て待居候に付委敷談判の暇無之依之拙者より右の趣を「ギルス」氏え勸め本日は前文記載の外委細の情實を述べざりし譯にて候

別れに臨み「ギルス」氏云く予は兩國の利益を慮り懇ごろに取計ひ可申候但し「ギルス」氏の口氣にては先づ好都合に相見得申候

明治十一年五月八日

榎本武揚

寺島外務卿殿

本文鯨嶋氏より接手の副書は同氏より閣下え可差進と存候に付別に拙者より差進不申候

過日「スツルウエ」氏來訪の節現下の稅則にては貴國の富を助くるに足らず隣國の富は即ち我國の爲にも利益也等私

七九一

話有之候又米國公使「ビンガム」氏より米政府への書翰東京「タイムス」中に記載有之候に付右を「スツルウエ」に示し候處同氏も「ビンガム」氏と全く同論なりとて右新聞を帶去り申候

四二九 明治十一年五月二十八日 榎本駐露公使ヨリ 寺島外務卿宛

條約改正交渉經過報告ノ件

附屬書 明治十一年五月二十日條約重修談判紀事第二號 別記第八拾九號 七月廿五日到

以公信致拜啓候然ハ先便申進候條約重修談判の儀に付本月廿日「スツルウエ」氏來館にて談判いたし候段別紙重修談判紀事第二號にて御披閱可有之候其後同伴の模様聞糺候爲め本日「スツルウエ」氏を訪候處同氏は過日拙者と談判の條々を巨細に認め一個の覺書を作りこれを「ギルス」氏え差出さんとして本日迄四次外務省に出候處「ギルス」氏繁劇にして開談の暇無之依之明日は可及開談約束の趣被申候「ギルス」氏の繁務なるハ先便申進候外に「ベルシヤ」帝

我 過日御差出ノ副書中ニ「重修談判中他ノ事柄ニモ彌ルベシト雖トモ海關稅ノ事ヲ以テ眼目トス」ト有之他ノ事柄トハ何等ノ事ヲ御談判ニ及バルベキニヤ拙者後日貴國ニ於テ談判ノ節ノ心得ノ爲メ承リ置度候

我 夫ハ我が外務卿ヨリ重修談判ノ日申出デラルベキ事ニ付拙者今ヨリ前言スルニ難シ然レトモ拙者ノ考ニハ開港場ニ關スル諸種ノ舊慣ヲ改テ新規則ヲ立ル事ニ止マルベシ何トナレバ現存ノ舊慣ハ方外ノ事而已多ケレバナリ

一彼 其大略ヲ承リ得ベキヤ

我 拙者ノ所見中ニ就テ一二ノ例ヲ可申述ニ付其御積ニテ御聞取有之度候譬へハ開港場道路修繕ノ費ハ其府民ニテ負擔シ外國人ハ是迄一錢タリトモ其任ヲ分チシ事ナシ然レトモ以後ハ外國人ニ車馬稅ヲ課シテ相當タルベキ事又開港場ニ於テ密商漏稅ヲ防ク爲メ一定ノ物揚場等ヲ取極メザルベカラズ此儀ニ就テ英公使「パークス」曾テ不法ノ語ヲ吐キ海關吏ノ觸書ニ逆ラヒシ事アリ又開港場ニ

魯京に來りしと魯帝本日を以て「ツアルスコエセロー」の夏宮に引移られ候等にて全く寸暇無之由に御座候「スツルウエ」氏より「ギルス」氏え可差出覺書を本日内見いたし候處全く別紙拙者陳述の條々を記し更に自己の見込を添たる者にて其中には拙者の未だ陳述せざりし遊獵規則及沿海貿易の事等必ず後日日本にて談判可有之と推察する等の語記載有之要之「スツルウエ」氏は勉て我政府の請求に盡力いたし居る事判然に御座候

同氏明日「ギルス」氏と談判の後其模様と拙者「ギルス」氏と公談の期日を爲知吳候約束に致置候

(下略)

明治十一年五月二十八日

榎本 武揚

寺島外務卿殿 附屬書

條約重修談判紀事第二號

明治十一年五月二十日「スツルウエ」氏來館ニテ下掛合ノ

紀事 一彼

於テ借地ノ外國人等其地所ヲ擅ニ他人ニ讓與シテ地方官ノ免許ヲ乞ハズ故ニ地方官ハ其地所ノ轉換セシヲ知ルニ由ナキ事アリ又或ル開港場ニ於テハ居留地々代ヲ悉皆地方官へ渡サズシテ僅ニ其一半ヲ渡シ其餘ハ居留地ノ積金ト稱シ「ミュニシバルカンスル」ナル者ニテ之ヲ預リ置キ隨意ニ居留地ノ用ニ費消スル舊慣アリ或ハ此「ミュニシバルカンスル」ナルモノニテ居留地ニ特別ノ巡查ヲ設ケ地方官取締ノ權ヲ波及セシメザル事アリ是レ豈ニ地方官ノ權理ヲ犯スニアラズヤ

一彼 實ニ然リ「ミュニシバルカンスル」ナル者ハ長崎ニ於テ有之ト承居レリ

我 又居留地ニ於テ外國人酒造紙漉其他ノ製造所ヲ設ケ隨意ニ販賣シ而シテ一錢タリトモ其稅ヲ我政府へ納ル、事ナシ此等ハ皆日本人民同様其營業稅ヲ取立サルベカラズ然ラズンバ我が人民ノ製造品ハ彼ト競爭スル能ハズシテ不得已廢業スルニ至ルハ自然ノ勢ナリ

〔^(朱)彼〕

横濱ニ麥酒ヲ製造スル外國人アリ渠ハ日本人同様ノ稅ヲ納メザルヤ」

我

然リ營ニ麥酒ノ製造ノミニ限ラズ且ツ斯ル營業ハ横濱而

已ニ限ラズ

〔^(朱)彼〕

誠ニ不相當ノ事供ナリ將タ開港場ニアル外國人ノ「バンク」ノ如キモ全ク自由ノ營業ナリト承リ居レリ是亦不相當ノ事ト兼々思居レリ」

我

然リ渠等ハ固ヨリ我政府ノ免許ヲ乞ヒ我國ノ銀行條例ヲ遵奉セザルベカラズ

又横濱其他ノ居留地ニテ外國人ノ發兌スル新聞紙ノ如キ我政府ノ所爲ヲ故意ニ誹謗シ其意恰モ我ガ國安ヲ妨ケルヲ以テ快務ト心得タルニ似タリ御承知ニ可有之通横濱「ヘラルド」ヲ始メトシテ「ヂヤツパン、メール」新聞ノ如キ皆此類ナリ然ルニ我ガ政府ニテ未タ之ヲ處分スル規條立ザルヲ以テ彼等ハ少シモ忌憚スル所ナシ是等處分

不都合ノ者ナレトモ或ル國ニテハ儉約ヲ主トシ無俸ノ領事ヲ置ク爲メ其地ノ商人ニ此名目ヲ與ヘ置ケリ譬ヘハ貴國ニ在ル瑞西ノ總領事ノ如キハ純然商人ナリ然レトモ今貴政府外國ノ營商領事ヲ受ケズトノ論ハ隨分込入タル事ナリ」

我

瑞西ハ歐洲中ニテモ特別ノ國ニテ儉約ト實地ヲ主トシ既ニ伯林府ヲ除ク外ハ修交吏サヘモ置カザル程ナリト聞及ヘリ營商領事ヲ置クヲ好マザルハ歐洲各國大抵皆然リト曾テ「オステンサケン」君ヨリ承リタリ抑モ商人ノ簿書ハ地方官之ヲ検査スルノ權アリト雖トモ領事職掌上ノ簿書ハ之ヲ検査スルヲ得ズ然ルニ營商領事ニ至テハ其簿書ニ對シ區分ヲ爲スニ難キヲ以テ私ヲ行フノ便アリ只我ガ政府果シテ此件ノ談判ニ及ブベキ哉否ハ拙者之ヲ保證スルヲ得ズ

〔^(朱)彼〕

承知致候」

我

又日本政府或ハ人民ニテ雇入ノ外國人ニハ内地ニ居住ヲ

ノ權ハ治外法權ノ部ニ相關涉スル者ニアラズ土耳其格國ノ如キサヘ此權ヲ保有セリ然ルニ我ニハ其法ナシ

〔^(朱)彼〕

拙者モ全ク同論ナリ既ニ昨年薩州一揆ノ最中横濱出版ノ外國各新聞ハ甚敷一揆黨ニ荷擔シテ百般ノ浮說流言ヲ吐キ散シタリ渠等已レガ住ム國ノ政府ヨリ保護ヲ受ケナガラ故意ニ其政府ヲ謗リテ國情ヲ騒カサシメント欲スルハ實ニ何ノ意ナルヲ知ラズ」

我

又燈明臺浮標等ノ如キモ外國商船ヨリ稅ヲ取立ザルベカラズ

〔^(朱)彼〕

貴國ノ進歩ニ從テ貴政府ノ費用ハ年ヲ逐フテ増加スベキハ自然ノ理ニ付至當ノ稅ヲ外人ニ課スルニ不平ヲ唱フベキニアラズ」

我

又領事ニシテ傍ラ商業ヲ營ムハ不都合ノ者ニ付此等ノ件モ談判ノ一ヲ爲スモ知ルベカラズ

〔^(朱)彼〕

許シ來レリ斯ル外國人若シ其地ニ於テ違犯ノ事アルトキハ日本裁判所ニ於テ處罰スルヲ得ベク而シテ開港場ノ領事ヨリ喙ヲ容ルベキニアラズ此儀ニ就テハ拙者三年前ニ「バロン・ジョミニ」君ト談判セシ事アリ而シテ同氏ハ同論ノ旨ヲ述ベラレタリ

〔^(朱)彼〕

拙者ノ一存ナレド此種ノ着手ハ治外保權ヲ後日ニ廢止スルノ初步トナル可シ拙者ニ於テハ至當ノ儀ト心得候若シ其外國人其約條ヲ肯ンゼザル者アルトキハ其者ヲ雇入レザル而已」

我

然リ拙者モ亦其論ヲ持セリ
又近來日本新聞紙等ニテ讀ムニ英公使ハ我ガ小笠原嶋ニ住ム英民ハ我地方官ノ處罰ノ權理ニ從フヲ要セズト言出シタリトノ由此等ハ最モ不相當ノ事タリ彼ガ如キ孤懸セシ地ニシテ其地ニ領事モ在留セザルニ所謂治外法權ナル者ノ權力ヲ波及セント欲スルガ如キハ甚タ謂レナシ既ニ「クリル」諸嶋ノ魯民ハ我ガ地方官ノ「ヂュリスデユクシオン」ヲ受クベキ約ヲ貴政府ニテハ承知セラレタリ

〔朱〕
「彼」

然り貴説ノ如シ」

我

以上略陳スル所ハ拙者ノ思想ニ任セテ述ベタル迄ニテ頗
ムル混淆セリ然ルニ拙者ノ考ニハ異日我が外務卿ヨリ貴
下へ可及御談判諸件中ニハ右等ノ事モ可有之而シテ其事
タル多分ハ英米等國ニ關係アル事重ナルベシト信ズ

〔朱〕
「彼」

然り拙者モ左様存候」

我

外ニ尙一要件ヲ思出シ候是迄我國ハ一國ニ許ス事アルト
キ他國ニモ其事ヲ許シ來リ候得共以後ハ特別ノ約束アル
ニ非ザレバ一國ニ許スノ權理ヲ各國ニ許サルベシトノ
談判モ多分可有之ト被存候譬へハ「クリル」諸嶋臘虎獵
ノ如キハ貴國トハ相^レ五ノ理ニ基キ特別ノ約アルヲ以テ
貴國民ニ而已ハ同獵ヲ許スト雖トモ英米其他ノ人民ニハ
之ヲ禁ジテ可ナルハ論ヲ待タズ然ルニ英米等船ハ毎年擅
ニ來航シテ獵スル事毎度新聞紙上ニ見得居候

〔朱〕
「彼」

ラズ猶此種ノ例ハ此稅則表^{此時現行ノ稅則表ヲ示シテ}ニ就テ算スルト

キハ尙數種アリ

〔朱〕
「彼」

成程貴説ノ如シ、飲料稅ハ如何」

我

御覽ノ通り酒類ハ燒酎類ニ至ル迄皆從價ノ五「ベルセ
ント」ニテ候現下保護稅世界ニ酒煙草ノ稅四分一「ベルセ
ント」ヨリ五「ベルセント」ニ過ギザルハ失笑スベキ程
ナリ

〔朱〕
「彼」

實ニ然リ是レ皆貴國ガ世界ノ狀態ヲ知ラザルニ乘ジテ取
極メタルニ外ナラズ恥ツベキノ至リナリ拙者ハ斯ル稅則
ヲ編制スル時ニ與カラザリシ事幸ナリ」

我

君ノ言ノ如シ現行ノ稅則ハ千八百六十六年英佛米蘭四ヶ
國公使等ノ定メシ者ナリ尤モ我が國始メテ港ヲ開キシ時
ノ稅則ハ御覽ノ通酒類ハ渾テ三十五「ベルセント」ノ稅
ニテ其他ハ二十「ベルセント」且ツ小極數ニテモ五「ベ
ルセント」ニ下ラザリシナリ然ル處内政ノ都合ニヨリ新

實ニ然リ我國トハ特別ノ條約アレバコソ彼嶋ニ於テ獵ス
ルヲ得ルナリ否ラズンバ特別ノ約モ之ヲ用エル所ナシ貴
政府ニテ同伴ヲ他國ニ禁セラル、トモ其國ヨリシテ異議
ヲ容ル、ノ權理アル事ナシ

今一事御尋申度儀ハ貴下ヨリ御差出シノ副書中ニ名目丈
ケノ稅ト言フ語アリ右ハ如何ナル譯ニ候哉」

我

一「ベルセント」ニモ至ラザル稅多シ故ニ之ヲ名目丈ケ
ノ稅ト名付シナリ

〔朱〕
「彼」

其證トスベキ者有之候ヤ承リ度候」

我

其一ニヲ舉クレバ毛織類上好品ハ十「ヤルド」ニ付現下
歐洲ノ通價五十「ドルラル」ニ下ラズト聞ケリ然ルニ其
稅ハ壹歩銀一個（即チ二十五錢）タリ是レ其稅タル半
「ベルセント」タリ又我國ニ輸入スル「ハワナ」「マニ
ラ」等煙草ノ如キハ壹斤ニ付荷クモ二「ドルラル」餘ナ
リ然ルニ此煙草百斤ニ付壹分銀一個ト百分ノ八十（即チ
四十五錢）タレバ其稅タル四分一「ベルセント」ニモ足

タニ開港スベキ場所ヲ五ヶ年延期ノ談判龍動ニ於テ整ヒ
シ時英政府ハ之ガ償補トシテ當時存在セシ稅ヲ減セン事
ヲ要求シ舊政府ハ已ムヲ得ズシテ之ニ應シ或ハ其後我が
頑固ノ暴徒佛人ヲ殺害セシ事コレアルニ際シ佛政府ヘ十
四萬「フランク」ノ償金ヲ差出シタル上更ニ又當時存在
ノ稅ヲ減セラレ又其後舊幕將ニ顛覆セントシ國內極メテ
多事ナルニ乘シテ各國ハ遂ニ現存ノ稅則（千八百六十六
年）ヲ取結ビシナリ此稅則四種ノ中ニ就キ御覽ノ通第一
種即チ「スベシフヒツク、デユチース」ノ歩合ヲ取極メ
シ時各種物品ノ原價ノ當否ヲ暫ラク措キ其價ハ今ヨリ十
二年前ノ價ナレバ目今ノ物價ニ據テ現存ノ稅ヲ照算スル
トキハ直ニ名目丈ノ稅ニ外ナラズ今我國家百般ノ改良ニ
從事シテ國費逐年増加スルニ際シ其重荷ヲ國民ニ而已負
ハセ外國人ニ向テハ右ノ如キ稅則ヲ存シ置クハトモ堪
ユベカラザル事ナリ

〔朱〕
「彼」

實ニ堪ユベカラザル事タルベシ拙者一個ノ所見ハ貴政府
ノ要求ヲ以テ皆理アリト看做シ候是レ拙者貴政府ノ懇待
ヲ受ケシニヨリ最負ノ心ヨリ出ルニアラズ隣國ノ富ミ且

ツ堅固ナルハ即チ是レ我ガ魯國ノ利益タレバナリ
貴政府ハ輸出税ヲ廢セラル、御見込ニ候哉」

我

然リ我ガ政府ノ要求スル所ヲ承諾スル國ヘ對シテハ其償
補トシテ輸出税ヲ廢スル見込ニテ候但シ輸出税ハ一切皆
廢止スルニヤ又ハ其多分ヲ廢止スルニヤ拙者之ヲ確言ス
ルヲ得ズ然リト雖トモ我ガ穀類ノ輸出税ヲ廢スレバ貴國
東「シベリヤ」海岸譬ヘハ「ウラデオストツク」港等ノ
如キハ直ニ其利益アルベシ

「彼」

然リ雙方ノ利益トナルベシ而シテ貴國モシ凶歳アラバ其
時丈ケ輸出ヲ禁ジ平年ハ其所産ヲ近隣ヘ輸出セバ大ニ貴
國農民ノ利益タルベシ」

我

然リ

「彼」

鯨島君ハ佛政府ヘ既ニ御談判ヲ始メラレシヤ若シ然ラハ
其模様如何ナリシヤ内々承度候」

我

「彼」

貴説ノ如ク我ガ政府ノ務ムベキ所ハ專ラ「モートル、ソ
ツポルト」ニテ我政府ハ貴國ノ利益ヲ篤ト心掛可申ト被
存候拙者ハ休暇中ノ身ニ付貴下ニ向テ一己ノ所見丈ヲ述
ベヤスク候尙「ギルス」氏ト示談ノ上貴下「ギルス」氏
ト御開談ニ成ルベキノ日ヲ可申進候」

我

何分相願候拙者ノ貴政府ニ懇請スル所ハ貴政府ガ我ガ政
府海關稅ヲ自ラ定ムルノ權理ヲ復スルノ要件ニ同意セラ
レ其旨ヲ書翰ニテ拙者ヘ御送り被下度ノ一事ニ有之候

「彼」

預シメ微細ノ答書ヲ差進候事ハ能ハザルベシ」

我

細事ハ後日我國ニ於テ重修談判ノ日ニアラザレバ豫シメ
細大悉ク承諾セラル、能ハザルベシ只拙者ハ我ガ政府ノ
要求スル所ノ大本ニ貴政府ノ御同意アランヲ希望致候

「彼」

承知致候」

右ニテ了ル

過日同氏ヨリノ來書ニ據バ既ニ一度開談ニ及ビシ趣外務
卿「ワデングトン」氏ハ新任ト云ヒ殊ニ現下政略世界ノ
紛紜ト博覽會等ニヨツテ甚タ繁劇ノ由右ニ依テ鯨島氏ノ
申立ヲ篤ト熟考セント答ヘタル迄ニテ其後ノ事ハ拙者未
タ承知不致候米國政府ノ方ハ談判モ頗ル捗下リ好都合ノ
由ニ承及候

「彼」

然ルカ、過日御示被下候「ビンガム」氏ノ書ニ據バ同氏
ハ必ラズ貴政府ノ要求ヲ成就セシメントテ盡力スルナル
ベシ拙者モ全ク同氏ト所見ヲ同シフ致候」

我

若シ或ル政府ニ於テ我ガ條約重修ノ要求ニ同意セザルト
キハ我政府ハ現存ノ條約ハモハヤ權力ナキ者ト公言セザ
ルベカラズト信ズ當國ニテハ貴君ノ御盡力及過日「ギル
ス」君ノ「兩國ノ利益ヲ慮リ懇ロニ取計可申候」トノ語
トイ、必ラス我政府正當ノ要求ヲ酌分ケラレ所謂「モ
ラル、ソツポルト」ヲ我ガ政府ニ借サレン事アルベシト
信ズ尙貴君ヨリ本日拙者ノ口述セシ件々ヲ御傳ヒ被下可
然御盡力ヲ希望致候

四三〇

明治十二年六月十二日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正ニ關スル露國政府ノ態度報告ノ件

附屬書 明治十一年六月八日條約重修談判紀事第三號

別記第九拾號

八月三日到

以公信致拜啓候先便申進候條約重修一件去る八日「ギルス」
氏と及談判候條別紙條約重修談判紀事第三號にて御披閱可
有之通もはや露政府の答書を待居候迄の運びに相成居候
「スツルウエ」氏の周旋及び「ギルス」氏事我ガ政府の請
求に同意の段は右書面にて御承知可有之候今般條約重修一
件魯政府にては他國と示談の上從事する等の義は無之單に
自個の見込を以て我と實際の基礎を定め候見込に被察候固
より魯國と我は貿易上に於て「マテリヤル」上の關係は殆
と無之候得共同國の「モートルソツポルト」は我と他の歐
洲各國實際上に自然影響可有之魯に次て此種の政略可有之
は米國たるべき歟佛政府は或は米に次く者歟何にもせよ歐
洲各政府か亞細亞各國へ對するかの合從連衡の政略を破て

偏に相互の基礎に復し候は今般條約重修の期を以て初歩を開くの好機會たるべしと冀望此事に御座候

魯政府の答書を落手致候は、拙者義願濟の通「シベリヤ」通歸國仕候心得に御座候書記官西德次郎義去る七日當表着致候間右答書落手の上は拙者不在中同人え臨時代理の御辭令書相渡し當外務省えも其段申進候上拙者義は市川書記官同道にて直ちに發軔の積に御座候

(下略)

明治十一年六月十二日

榎本武揚

寺嶋外務卿殿

附屬書

條約重修談判紀事第三號

明治十一年六月八日外務省に於て外務大輔

「ギルス」氏との對話

我 過日來「スツルウエ」君へ陳述致置たる事柄及び其他の事柄に於て猶御尋の个條も有之候はゞ口述可致候
彼^(朱) 「スツルウエ」の口述と同氏より差出たる覺書に由て委敷承領いたし別に拙者より御尋可申个條は無之候貴政

條約を重修するに當て我人民は不を平唱ふる事可無之と存候」

我 我政府の希望する所は貴政府の「モータルソツボルト」に有之就ては貴政府に於て我政府の請求する税則取極めの權理を我に復する事を御承諾有之其旨を書面にて拙者へ御申越有之度希望いたし候

彼^(朱) 必ず差進可申候貴下の御出立も程遠からずと承候に付成丈け差急き可申其代り^(微笑)して御再來を約し候御休暇は凡そ何ヶ月程に候哉」

我 道路も遼遠に付何ヶ月と御即答兼致候

彼^(朱) 然るか、大藏卿は穎利の人物に付必ず事情を能く汲分け可申と存候將同卿より疑問の廉有之候は、尙貴下と御談判の上にて答書可差進候併拙者の考には別に疑問の个條も有之間敷かとも存候

別事ながら笑^(朱) を含て云く「スツルウエ」は休暇中相働き居候に付休暇日延を帝に乞ひ許可を得申候妻君の所業と被存候」

我 然るか、尙何分宜敷御周旋御依頼申候

右にて畢る

但し「スツルウエ」氏の覺書とは即ち先便別記第八拾九

府の御所望は一々至當と存候に付拙者は聊か異存無之既に「スツルウエ」の覺書を以て先日帝へ言上致候處帝も御同意にて尙大藏卿と照會せよとの仰せ有之依之「スツルウエ」の覺書を同卿方え相廻し置候に付其見込の返答有之次第其所見を并せて帝へ奏聞の上我政府の答書を差進可申候

「スツルウエ」の覺書及び貴國駐劄米國公使より米政府へ建言せし書も閱讀いたし候拙者の所見も米公使と同斷にて貴國の御所望を成就致度存居候

我 貴下御懇篤の御口上は我政府へ可申立必らず満足可致候拙者より「スツルウエ」君へ陳述せし現存の貿易條規

及び税則は既に御承知に付今日再贅するを要せず只御承知相成たる通の事情に付現存の條約はとも存し置く譯には參り不申何となれば甚た不公平にして我か内民にのみ重荷を負はせ居候へばなり

彼^(朱) 御尤の事に候貴國政府轉換^{維新をいふ}の際と其他の時難に乗して外國は己れか爲に勝手を圖りたる趣に相聞へ候に付現存の條約は貴政府に多少の御損可有之段推察いたし候我國には貴國の製造品と競争する者無之に付現存の

號に一寸申進たる者にて候又米國公使の建言書とは即ち拙者より先達て「スツルウエ」氏を示與せし本年三月九日東京「タイムス」中に載たる米公使「ビンガム」氏千八百七十七年一月三十日附に係るより米政府へ差出たる公書にて候前新聞中に税則一件を論せし者も「スツルウエ」氏を示し置候

四三一 明治十一年六月十八日

寺島外務卿ヨリ
榎本駐露公使宛

榎本公使歸朝ノ件

榎本公使別信案第九號 六月十八日附

以別信申進候四月廿日附別信第八拾七號接手内條約重修談判の儀に付鮫島公使書信の趣に寄暫時御見合せ且時宜に寄巴里府迄出張も可被成御見込等領悉候然るに本月十五日其地十四日發電信到來既に御開談抄取宜布相聞え安心致候就ては御歸朝の都合等御申越右は西書記官其府到着事務御引繼發程可有之昨十七日以電信其段申進置候右寫茲に封入候

(中略)

右御報迄如斯候也

註 六月十四日發榎本公使來電及同月十七日發同公使宛往

電寫見當ラズ

四三二 明治十一年七月三日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正ニ關スル露國政府ノ回答書送付ノ件

附屬書

明治十一年六月二十日露國外相代理ヨリ榎本駐
露公使宛書翰寫

條約改正ニ關シ回答ノ件

別記第九拾貳號

九月七日到

以公信致拜啓候然は條約改正談判の末昨二日夕露政府より
別紙の通答書有之候に付不取敢今朝以電信其段申進候

秘號電文の譯 Having received yesterday the satis-

factory written answer from Russian Government,

I determined to start for Siberia shortly.

Enomotto.

露政府の答書は御覽の通別に喩を容れべき所無之様存候尤
も書中東京駐劄使臣え訓狀可差遣云々の儀に付右は「スツ
ルウエ」歸任所の節を謂ふにやと相尋候處全く左様に候旨
亞細亞權頭より答有之候「スツルウエ」氏は休暇延期願聞

前文ノ件ニ付東京駐劄吾公使ヲシテ依テ以テ日本諸卿ト商
議スルノ權ヲ付ス可キ訓條ノ考案ヲ作爲スルカ爲メ本省ニ
於テハ大藏省ト精々協議可致候敬具

千八百七十八年六月二十日

シ ャ ル ス

特命全權公使海軍中將榎本武揚君

(本原大)

N. 1848

20 juin 1878 Monsieur l'Envoyé.

J'ai exactement reçu la note que vous avez bien
voulu m'adresser, par rapport à la question de la
révision du traité actuellement en vogueur entre le
Japon et la Russie.

Le cabinet Imperial, prenant acte et appréciant
l'importance des considerations qui portent le Gou-
vernement de Sa Majesté le Mikado à provoquer
cette révision est disposé en principe à optempérer
au voeu qui lui est transmis par Votre organe.

Il aime à espérer que le Gouvernement Japonais
voudra bien voir dans cet acquiescement un nouveau
témoignage de l'intérêt tout particulier que le Gou-

寺島外務卿時代 四三三

濟に相成候得共本年十一月露中には日本え向け出立可致心
組の旨過日拙者え内話いたし申候

本日は當外務省え罷越前文答書の忝なきを謝し并せて我か
政府は成丈け早く東京に於て本談判可致望なる旨を述置申
候

(下略)

明治十一年七月三日午後五時

榎本武揚

寺島外務卿殿

附屬書

拜啓陳者日本露西亞兩國ノ間ニ現今實行セル條約改正ノ儀
ニ付拙者ニ御送致相成候一書正ニ致受收候

吾皇帝内閣ニ於テハ日本皇帝陛下ノ政府ヨリ此改正ヲ欲セ
ラル、所ノ論旨ノ要點ヲ熟考深思ノ末貴下ヨリシテ吾内閣
ニ御通暢有之候御請求ノ趣先ハ御同意可申存念ニ御座候
右承認ノ一儀ハ吾皇帝政府ヨリシテ貴國ノ益々盛昌ニ赴ク
可キニ深ク注意セル一新證ニシテ且兩國間ニ存スル所ノ友
誼ヲ保全シ且其愈々親密ナルヲ渴望セル一憑據ナルヲ日本
政府ニ於テ能ク了解アラシム事ヲ致希望候

vernement Impérial porte du developpement de la
prosperité du Japon, une preuve de son désir d'ent-
retenir et de fortifier les relations d'amitié qui exis-
tent entre les deux pays.

Le Ministère Imperial ne manquera pas de s'en-
tendre avec le Ministère des Finances à l'effet d'éla-
borer conjointement un projet d'instructions sur la
base des quelles notre Représentant à Yedo sera
autorisé à aborder avec les Ministres Japonais des
Negociations sur l'objet en question.

Je saisis cette occasion pour Vous réiterer, Mon-
sieur l'Envoyé les assurances de ma consideration la
plus distinguée.

Signe GIERs.

Monsieur le Vice-Amiral Enomotto
Takeaki, Envoyé

etc., etc.

四三三 明治十二年三月二十二日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

倫敦會議ニ對スル露國政府ノ意向報告ノ件

附屬書

明治十二年二月七日西駐露臨時代理公使ヨリ寺

別記第九十七號

以別信申上候陳者此節英國より我稅權論を議する爲「ロンドン」に於て會議を催し外諸國を右會議に招ぎし趣承り候付當魯國政府も其招ぎに與り候哉否の段聞合せ申候處其案内は已に受け候得共其返答は未致すとの儀に御座候

右ロンドン會議の儀に付去る七日に當國外務省アジヤ局長より日本もロンドン會議の案内を受け候哉且つ日本政府は如何之に處す可哉の段聞れ申候然處拙者には右の事件別に存じ居不申候間追て返答致す可段申置候同日直に秘號電信を以て右會議に對し廟決を御伺申候儀に御座候

魯政府は右會議に付ては御報申上置候通日本政府の決を待て英には未答へざる由に御座候若し我廟議「ロンドン」會議え同意の御決に相成候はゞ魯も之に應じて此會議え委員を出す積と被伺過日東京駐劄公使「ストルウエ」右の趣を以て拙者え内話いたし且つ常人は早く日本え直行を望み居候故頻に此論決を待つとし咄し居申候一體我稅權論に至ては魯政府は兼て日本の方を持ち居申候

四三四 明治十二年三月十六日

寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

英國政府提唱ノ倫敦會議ニ關シ訓令ノ件

西代理公使別信案二號 二月廿六日附

以別信申進候條約重修に付英京において締盟各國全權を會し協議可及旨英國政府の見込に有之露國政府にも右案内有之候處我政府決議の模様分り兼候より未返答不及の旨本月十九日附電信同廿一日落手候右は會て榎不公使へ附與候訓狀に添有之内達書中掲記候ことく彌各國會議可及場合に候はば我東京にて談判および度見込に有之候得共訓狀中の要旨海關課稅の權を舉て我掌握に歸せしむべき所望に協同すべきとの事に有之候はゞ右細目を商議候分は英京にても差支無之事に候條本月廿一日を以在英上野公使^{（露三三）}迄別紙寫の通及通電貫下えも轉達可及旨申遣置候間疾御承知に可有之候得共猶此に縷述および候也

註 二月十九日發西臨時代理公使來電見當ラズ

四三五 明治十二年三月六日

寺島外務卿ト
露國臨時代理公使トノ對話書

は已に信す可儀の處此度「ロンドン」會議一條は魯も日本政府の決を知らずしては之に處し難き儀に付確と日本の大主意及び此論に關せし事は略聞度段「ストルウエ」より拙者え内問致居申候就ては魯の我か方を持は自ら我稅權論の一助にも可相成候得ば右論に關せし事件は外に差當らぬ丈け當國政府えは其問ひに應じて答へ置候方都合宜かる可愚案に御座候條此段一往御伺申上置候左候て若其方可然御見込に御座候はゞ右稅權論關係の事は委細御示諭被下様有之度此段申上候拜啓

明治十二年二月廿二日

臨時代理

西 德 二 郎

寺島外務卿殿

附屬書

別記第九十七號附啓

去ル七日ニ秘號電信ヲ以テ伺ヒ候主意書爲御心得差上候

ロンドン會議ノ事ドウ決議アリシヤ魯ハソレヲ待チ未ダ英ノ案内ニ答ヘズ

倫敦會議開催ニ對スル帝國政府ノ意問合ノ件

明治十二年三月六日露公使來省外務卿對話

一條約改正ノ儀ニ付於龍動會議ヲ開ク事ハ我政府於テ同意ナルヤ問合セ

公使

於龍動會議ノ儀其後如何相成候哉

右會議ノ義ニ付テハ其後何トモ申越無之候得共英國政府ヨリパークス氏へ歸國ニ不及旨申參リシ哉ノ趣承リ候

右會議ノ事英國政府ヨリ我政府へ申入相成候ニ付我政府於テハ日本政府ヨリ同會へ委員差出相成候義ニ候ハハ同意スベキ旨今般電信ヲ以申越セリ先般上野公使へ御申遣シノ電信ノ旨意御話ノ處右ニ付未タ何等申越無之候哉

否其後何トモ申越無之候

東京ニ被成度旨御申遣不相成哉

然リ申遣セリ

何日頃御申遣相成候哉

昨日申遣セリ

昨日電信ヲ御遣シ迄ハ龍動ノ御積ナリシヤ

始メヨリ東京ノ積リニ有之乃在外我公使館等へ差遣候訓狀中ニモ其旨申置候

龍動ニテ會議スルトハ何人ノ望ナルカ

英政府ノ望ナラン

日本政府ノ考ヲ問ハズ申出候義ナルヤ

上野公使へハ問合モアリシカ難計ケレトモ同公使へモ前ニ申通り東京ニテ協議致シ度旨申遣シ置候事故若シ問合アラバ右様可答答ト存候

先ツ於龍動會議ノ義ハ御止メニ相成候モノトシテ可然哉

昨日東京ニテ協議致度旨申遣シ候迄ニテ未タ何トモ不申越候得共此方於テハ右會議ノ義ハ先ツ止メニ致度存スルナリ
最初御申遣シノ電信ニ未タ返答無之内東京ニシタシト御申遣相成候哉

然リ

今般上野公使へ東京於テ協議被成度ト御申遣相成候旨拙者ヨリ本國政府へ可申遣存候就テハ此後英獨等ノ政府ヨリ申出ベキ模様ニヨリ於龍動會議ヲ開ラク事ニ御同意相成候様ノ事ハ有之間敷候哉

四三六

明治十二年三月十二日

寺島外務卿ト
露國臨時代理公使トノ對話書

條約改正談判開催地及談判ノ形式等ニ關スル件

明治十二年三月十二日露國代理公使來省外務卿對話

一、條約改正一件

公使

先日スツルルーウェ氏ヨリ電報有之同人出立ノ期モ未タ不相分ヨシ

龍動會議ノ義ニ付テハ其後何ニモ報知無之候哉

英國ヨリハ右ノ儀ニ付其後何トモ申越無之候共貴國在留西

代理公使ヨリ右ノ儀ニ付申越有之候

拙者へモ我政府ヨリ電報有之候

西ヨリハ可成同會へ委員派出候様致度旨申越セリ

今般會議ノ儀ハ貴政府ヨリ兼テ御申入相成居候旨意ニ

違ヒ候譯ナル哉

然リ

乍併會議ニテ御評決相成候方御都合可然存候

夫ハ貴下ノ御考ナルヤ又ハ貴政府ノ御考ナルヤ

我政府ノ考ニ有之候

何レニシテモ東京於テ協議セント欲スルナリ萬一某々國於テ會議ヲ開ラクニモセヨ貴國ト協議スルニ於テ他國ニ關係ナカルベシ

先ツ於龍動會議ハ無之ト相考可然哉

今モ申通り英國政府ヨリ當地在留英公使へ先ツ歸ルニ及バズト申越相成候哉ノ趣上野公使ヨリ私迄申越候程ノ事ニ候間多分同會議ヲ開ラクニ至ラサルベク存候

(中略)

在彼得堡西代理公使ヨリ今般龍動會議ノ事ニ付別段電信モ無之候哉

凡十五日程前同人ヨリ電信ヲ受取候其旨意ハ貴下御落手ノ分ト同様ノ意味ニ有之候

右電信御落手ノ後曾テ閣下ヨリ御示相成候在英上野公使へ御差立電信ノ旨意ヲ我政府へ申遣置候處其後御考ノ變リシ事カト拙者相考へ今般拙者ヨリ貴政府ハ龍動於テ會議ヲ開ラク事御好ミ無之旨我政府へ可申遣存候
右ニテ畢ル

兼テ我政府ノ望ム所ニ同意スルトアラバ會議シテモヨロシ尤モ東京ニテ協議スル譯ナレバ其等ノ事ヲ承ハルニ及バザルベシ

貴政府ノ御望ミハ關稅ヲ勝手ニナサレ度譯ナルカ

勝手ニスルト申譯ニハ無之兼テ御覽ニ入置候訓條ノ中ニ有之通り條約國ノ内或ル國ノ稅ヨリ上ニハ超ヘシメズトアレバ乃制限相立居候譯ニ有之候

各國於テ貴政府へ稅權ヲ任セル事ヲ承知ノ上ナラデハ會議不相成候哉

於龍動會議ヲ開ラク義ニ候ハ、先ツ我望ミヲ承諾相成候上ナラデハ應シ難候

先般上野公使へ御申遣ノ後貴政府ノ御望ミニ應スルヤ否報知無之候哉

未タ承諾相成候旨報知無之ニ付多分東京ニテ協議スル事ニ相成可申候

西氏ヨリハ其邊詳細申越無之候哉

右ハ悉シク不申參只龍動ニ於テ會議スル様致度ト申越候迄ニ有之候

拙者ノ考ニテハ縱令某々國ニ於テ貴政府ノ御求メヲ承

諾セザルトモ今般ノ義ハ會議ニ御掛ケ被成候方可然存
候若シ某々國ニ於テ訓條之通り承諾不致時ハ如何被成
候哉

承諾相成候上ハ何レニテモヨロシク候得共承諾無之國ハ最
前申入置候通り東京ニテ協議スベシ其譯ハ訓條ノ通り承知
相成候義ニ候ハ、凡ソ取調方モ出來居候義ニ付委員差出シ
差支無之候得共不然時ハ彼地ニ於テ如何ノ儀ニ涉リ候哉不
相分其節一二ノ委員ガ他國ニ在テ取調候義ハ迫モ六ヶ敷事
ニ有之候

一體税目ノ件ヲ評議ニ付スル事ハ御望ミ無之義ニ候哉
評議ヲ要スル時ハ評議モスベケレドモ其邊ノ義ハ豫テ期ス
ベキ事ニアラズ

今般於龍動會議ノ義貴政府御要求ノ旨意承諾有之迄ハ
御同意不相成義ニ候哉

然リ

拙者ノ考ニテハ貴國政府ノ御望ノ通り承諾候ハ伊國ト

我國トニ限ルベシ其他ハ不承知ニ可有之存候

獨逸ハ此方ニテ協議スル事ヲ承知セリ

併シ龍動ニテ會議ノ方御都合ナルベシ

ノ内一國不承知ヲ言ヘハ夫ニテ事成就セサル事アリ一同ニ
致サネバナラヌ事ナレバ致方無之候得共條約改正ノ儀ハ各
國一同會議スルニ不及事ニ有之候

條約ノ義ハ乃一般ニ關係候義ニ有之一國ニ許ス事ハ他
國ヘモ許サ、ルヲ得ス故ニ一同會議候方可然ト申上候

譯ナリ

併シ前條ニ申通りノ次第ニ付夫レハ夫ニ致候テモ東京ニ致
シ候方可然

拙者相考ヘ候ニ英國ノ如キ貴政府ヨリ御申入相成候義
不承知ノ國ハ貴國政府ヘ稅權ヲ握ラレ候時ハ非常ニ稅
ヲ高クセラル、ナラント思フテナルベシ

英國ヨリ佛國或ハ其他ノ國々エ送ル物品ニモ稅ヲ課スベシ
其等ノ國ニテ取立ル稅ヨリハ高クトラスト言ヘハ其邊ハ相
分リ居ルベシ

今般條約改正ノ儀御需求ニ就テハ此个條ハ云々彼ノ廉
ハ云々詳シク草案ヲ製シ會議被成候万御都合ヨロシカ
ル可存候且會議ヲ相開ラキ候ニハ龍動ノ方便利ト存候
何トナレバ各國ヨリ委員ヲ派出スル大ニ都合ヨロシク
御座候

否龍動於テ會議スル時ハ豫テ我政府ヨリ申入置候旨意ニ應
セラレ候儀ナレバ宜シケレトモ左モ無之ニ於テハ如何様ノ
事項申出相成候哉モ難計候若委員ノ者心得居ラサル事先方
ヨリ申出相成候節一々當地ヘ問合サザルヲ得ス大ニ不都合
ト存候夫トモヨキ御考ヘアラバ承ハリタシ

拙者相考候ニ稅則ノ儀ハ矢張コンウエンションニセネ
バ各國ニ於テ承知セサルベシ

併シ其承諾セザルノ譯拙者ニ於テ何分相分不申若シ承諾シ
難キ譯アラバ斯様々々ノ譯ニヨリ承諾ナリ難シト申越アラ
バヨロシ

各國一同龍動ニ相集リ會議セバ事速ニ相運ビ且貴國ノ
爲ニモ其方大ニ御都合ト存候米國トハ別ニ條約ヲ御取
結ビ相成候得共右ハ格別能力無之様存候

以前各國別々ニ取結ヒシ條約ヲ一同會議シテ改ムル筈ハ無
之候

貴國ノ條約ハ米國ヲ始メトスレバ其際各國追々米國ノ
條約ニ基キ取結候義ニテ何レモ同様ノ事ニ候ハ、一同
會議ノ上改ル方可然存候

各國一同會議致スハ如何ニモ不都合ト存候何トナレバ各國

若シ日本人多分貴國ニ在留シ貿易ヲ營ミ居リ候節貴國稅關
ノ儀ニ付貴我兩國協議スヘキ事有之之ヲペートルズボルダ
於テ協議スルハ至當ナリ之ヲ東京ニ於テ議スルト言ハ、不
都合ナルベシ先年貴國ト樺太交換ノ節トテモ大體ハ貴京ニ
於テ議定セシモ細事ハ實地ニ付雙方ヨリ取調ヘタリ

然リ今般モ大體ハ龍動ニテ議定相成候テハ如何ニ候哉
不然今般龍動ニテ議セント言ヘルハ稅目ノ義ニテ乃條約中
ノ細目ナリ

何レ貴國ノ御都合ハ貴方ニテヨク御承知ノ事ナルベケ
レドモ我政府ハ今般龍動於テ會議相成候万御都合ヨロ
シカルベシト存候ニヨリ斯ク申上候譯也

御序ノ節稅目等ノ取調方ハ其地ニ在ツテ取調サレハ不相運
事情貴政府ヘ御申返シ置有之度候

條約ヲ御取極相成候ニハ各國大體同様ノ事ニ可相成筈
也然ラバ今般會議ノ上御取極相成候事モ可然

我政府望ノ通り承諾相成候ハ、早速同意候テモヨロシ
未タ各國ヨリ其邊確ト回答無之哉

獨逸ハ東京ニテ協議スル事承知之旨書面ニテ回答アリタリ
貴政府御望ノ廉ハ承諾セシヤ

税目ヲ相談シテ製スベシト申越候ニ付當方ノ求ムル所ヲ承知ナルヤ否申遣セシガ其後回答無之候

税權ヲ全ク御取り被成度思召ナルヤ

夫ハ兼テ御示申置候訓狀中ニ有之通ニ付篤ト御承知ノ事ト存候

右ニテ畢ル

四三七

明治十二年三月十七日

寺島外務卿ト
露國臨時代理公使トノ對話書

條約改正談判開始ニ關スル我方方針ニ關スル件

明治十二年三月十七日露國代理公使來省外務卿對話

公使

一、條約改正一件

過日御面晤ノ節條約改正一件於龍動會議ノ義ニ付我政府ヨリ電報有之候旨申上置シカ未タ拙者ヨリ何トモ本國へ回答不申遣就テハ其後貴考如何ニ候哉

過日申置候通り愈東京於テ協議シタキ旨龍動ニアル我公使へ申遣シ置シガ其後何トモ申越無之候併シ其都合ニヨリ孰レニ相成候哉モ難計候其故ハ我政府ハ最初ヨリ東京於テ

協議スル積リナリシカ故ニ矢張東京ニ致度第一也於龍動會議ノ義モ曾テ我政府ヨリ申入置キシ事承知ノ義ナラバ之ニ應スベキ第二也右兩様ノ内何レニ歸シ候哉其都合ニヨリ候義ニ有之候

承知致候右ノ趣ヲ以我政府へ回答申遣スヘク存候
右ノ外御談判アレドモ英語ヲ以テ御談示ニ付不記候也

四三八

明治十二年三月二十二日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

倫敦會議ニ關スル露國政府ノ意嚮報告ノ件

別信第九十八號

五月十二日到

以別信申上候陳者龍動に於て我條約改訂上の會議を催すの義に付去る二月廿一日在英公使へ御電報相成候英政府への御答の趣に付去る十一日當國外務省に於て右の答は既に英政府へ報になりしやと拙者へ問ひ候に付拙者否と思ふ段答へ候處「メリニコフ」亞細亞局長「スツルウェ」の説に右答は此方に於ては餘り過激に失する哉にも案尤我輩に於ては貴國の爲め此論都合能く決するを望み右會議に於て貴國に助力致の積りにて既に英政府へも日本名代人を右會議に

外務卿

寺島宗則殿

臨時代理公使

西 德 二 郎

四三九

明治十二年三月二十六日

寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

倫敦會議ニ關シ回訓ノ件

西臨時代理公使別信案第四號

三月廿六日附

以別信申進候條約重修ニ付在英上野公使エ通電ノ旨意事柄手強ク可成穩妥ノ談判ニ出會議致度旨本月十一日附電信同十二日致落手候右ハ兼テ附與致置候十一年二月九日附訓狀ノ主義ニ異議ナキ歐洲某國ト於龍同會議相開候テモ差支無之旨上野公使并ニ我邦在留英公使ヨリ英政府へ答置候其故ハ前訓狀ノ通某政府ニテ異議ナケレハ改定談判上甚容易ニシテ遠ク歐洲ニ委員ヲ派出スルハ我政府ノ主義貫徹可致見込ニ有之候譯ニ候得共稅則改正ノ權其他件々ニ付稍々異論有之上ハ改正談判ノ節諸條目取調方實際遠隔ノ場所ニテハ

一體英へ御答の趣は當政府に於ては我に不利なる感を起せし哉に相見得候に付此段爲御心得申上置候
(下略)

明治十二年三月廿二日

在魯

ノ趣意ニ有之候條猶其事情徹底候様露國政府エ辯論可有之
右御答迄如此候也

尙以條約重修ニ付在我露公使對話書并本文電信ノ寫共
爲御心得別紙遣進候也

註 別紙對話書(明治十二年三月六日、十二日及十七日ハ
前出ニ付省略) 四三五、四三六、四三七、參看

四四〇 明治十二年四月六日 西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

倫敦會議中止ナリタル旨報告ノ件

別信第九拾九號 五月二十六日到

以別信申上候英政府は東京に於て我條約改正を議するに同
意し先に企てし龍動公會は取止に相成候趣上野公使より報
を受候に付其段在東京公使「スツルウエ」氏之報じ置候處
同氏も今は此五月初を以て當地を發し米國通にて日本え赴
く様相決せし由に御座候
同「スツルウエ」氏の内話に近頃米政府より魯は如何英龍
動公會の招ぎに答へし哉と電問せしに付當國外務省は前別
信第九拾八號にて申上置候通答へ置委細は近々「スツルウ

ハ右ノ主趣ヲ以テ可被答候

四四二 明治十二年七月十八日 西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

東京商議ニ對シ露國委員任命アリタル旨報告ノ件

附屬書 明治十二年七月十五日露國外務次官ヨリ西駐露
臨時代理公使宛書翰和譯文

東京商議ニ對シ露國側委員任命アリタル
旨通告ノ件

別信第六號を以御來示相成候當政府え條約重修の爲め委員
を東京え派遣相成候條可申入旨致承知候右に就ては當春上
野公使より龍動會議は取止に相成會議の場所は日本東京に
相定めし報を得候節其趣を當政府へ報し置候儀は第九拾九
號を以申進置候通にて其節「スツルウエ」氏儀右會議の委
任を帶ひて出立相成候段は承知いたし候義に候へ共表向書
面の掛合には及不申候に付此度書翰を以御來示の趣を申入
れ且つ右は既に「スツルウエ」氏え御委任相成候哉問合せ
候處別紙譯文の通返答有之候間此段申進候

エ」彼地を過る筈に付其節當人を以て示談に可及段返答致
せし由に御座候此段爲御心得申上置候

明治十二年四月六日

臨時代理 西 德 二郎

寺島外務卿殿

四四一 明治十二年五月二日 寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

英國東京ニテ商議開催ヲ承諾シタルニ付露國委員東
京へ派遣方申入ルヘキ旨訓令ノ件

西代理公使へ別信案第六號 五月二日附

別信第九十七號接手條約重修ノ爲メニ龍動ニ於テ會議可開
トノ儀ニ關シ第二號第四號別信ヲ以テ委曲申進置候處其後
英政府ハ我方冀望ノ通東京ニ於テ重修ヲ商議候方ニ致協同
候旨在英我公使ヨリ電報有之龍動會議ノ事ハ廢止ニ相成候
就テハ任國政府ニ於テモ條約重修ノ爲メニ委員東京へ派遣
有之様可被申入候且又右重修ニハ我政府決意ノ處ヲ承知致
度トノ趣英公使ヨリ内問有之候得共我政府冀望ノ要點ハ十
一年四月九日附訓條ノ主意ニ不外候へハ今後尋問有之候得

(下略)

明治十二年七月十八日

臨時代理公使 西 德 二郎

寺島外務卿殿

附屬書

六月廿日附貴信第九拾四號ヲ以テ御申入有之候貴國條約重
修ノ爲メ東京ニ於テ相催サルベキ會議ノ儀ニ付テハ既ニ我
全權公使「スツルウエ」事有用ノ訓狀ヲ受申候且ツ「スツ
ルウエ」儀ハ會議ニ臨テ深ク日本ノ利益ニ注意シ兩帝國ノ
間ニ存在スル懇親ノ交誼ニ應シ萬端取計ヒ可申儀ニ御座候
敬具

千八百七十九年七月二日(我十五日)

「ギ ル ス」

西代理公使貴下